

ナチュラリストの

# フィールド日記

293

中川宗孝(環境生物研究会・城陽環境パートナーシップ会議)

## 夏の申し子にアンラッキーな大型台風襲来!

前回、『フィールド最盛期を迎え、川通いで手足の生傷が絶えないナチュラリスト、早朝から夜間まで、日々元気に走り回っています。』との報告から、もう二か月以上が経ってしまいました。

そんな中、9月16日について川の中で釘のような尖った物を踏み抜く大ケガを負い、二週間の入院勧告を受け、今シーズンの水辺の生き物調査の終焉を迎えています。木津川川漁師の筆者に課せられた岐阜大学でのスッポン繁殖実験には何とか応えることができた、城陽環境パートナーシップ会議恒例の「今池川自然観察会」と、河川レンジャー主催・城陽市教育委員会後援の「とのっ子探検隊」では、水辺の生き物を実際に捕獲確認してその責を果たせたことはせめてもの慰めでした。

和東町の野生生物生息調査2年目を迎えた今年、鳥類と両生・爬虫類に続いて、淡水魚と水棲昆虫の調査に力を入れてきました。和東川では、絶滅寸前種のスジシマドジョウに絶滅危惧種のアカザを捕獲確認し、やはり絶滅危惧種のアブラハヤやメダカなど魚類リストも胸を張れる充実したものになりました。

それでも、ロートルナチュラリストの最後のお勤めの地となるであろう和東町に於いて、特筆すべき生き物の新発見で有終の美を飾りたいとの想いで、可能性のある希少淡水魚を検索してスナヤツメに白羽の矢を立てました。かつて滋賀県の大戸川支流の清流で発見し、当時の琵琶湖文化館に持ち込んだ思い出の魚で、南山城地方では生息確認されていない京都府の絶滅危惧種です。

そうして挑んだ潜水調査で中耳炎となり、不運は重なり目の疾患でレーザー治療を受けること両眼で5回、7月末から9月3日までかかりました。その間、スマホの文字も見づらく、パソコンも控えなければならず、身体が元気なだけにストレスが溜まります。また、外来生物バスターを名乗る猟師の筆者、免許更新の時期とも重なり、視力検査では冷や汗ものでなんとか合格してことなきを得ています。

この間の夏休みイベントも、申し込み初日に募集定員をオーバーし、280名もの参加者があった「太陽が丘・夜の昆虫採集会」も、心強い講師陣に支えられて滞りなく終えることができました。一昨年「サイエンスキッズ夏祭り」に、中尾先生の紹介で参加した弟子入り志願の松井優樹君は、昨年には「日本爬虫両棲類学会」での研究発表に名を連ねる戦力に育ってくれ、今年同イベントでは小学校4年生の相棒と「京都の生き物たち」の講座を担当しています。

更には、12年前の心筋梗塞発症以来定期検診を受けている循環器科でもひっきり、カテーテル手術で入院の憂き目です。さすがにこれだけ重なっては元来のネアカ人間も家族やナチュラリスト仲間と関係者たちに多大な迷惑をかける結果となり込んでいます。そんな背景での活動報告は、負の要素を感じさせないいつもの笑顔のフォトレポート・和東町の調査仲間の紹介でゲン直し第一弾です。

打たれ強いナチュラリストの完全復活序章となる報告にお付き合い下さい。



1



2



3



4



5



6

◎フォトアルバム・和東フィールドの調査仲間たち

【写真①】昨年来取り組んでいる和東町の野生生物生息調査は、2009年に当時の南山城村・笠置中学校の尾野和広校長先生(右)に環境

学習指導に呼んでいただいた縁によるものです。この時の野外実習授業で、ヒメミズカマキリやマルガタゲンゴロウなど、京都府南部では生息記録のない絶滅危惧種の水棲昆虫を捕獲確認し、同じく絶滅

種の再発見となったコガタゲンゴロウを中学校に寄贈して飼育展示いただき、東町では、先ずは絶滅寸前種のスジシマドジョウに絶滅危惧種のアカザ、準絶滅危惧種のカジカガエ

【写真②】和東町との関りは、2008年に城陽市で見つかった屍が幻の珍蛇・シロマダラであった

【写真③】そして鳥類担当は、もう20数年「日本鳥学会」での共同研究発表者仲間の、脇坂英弥君

【写真④】そして、最も古い付き合いの岡井昭憲先生(右)は、長男の勇樹君が小学校低学年の頃から筆者の指導する自然観察会に参加し、すぐさま天賦の才を

【写真⑤】城陽PS会議の「生き物ハンズ」の認定を受けたナチュラリストの後継者の父親です。コアな分野を持たない岡井先生を、鳥から魚からカメからカエルに昆虫などの調査に連れ回し、イベントには欠かせない存在となつていきます。

【写真⑥】8月11日、ついに思い余って京都府レッドデータブックで絶滅危惧種のスナヤツメの解説をされている林博之先生(右)に泣きつきました。和東川での生息の可能性や生息ポイントをお尋ねし、林先生も京都府南部では確認されていないスナヤツメの、丹後地方での記録を参考に一日かけて一緒に散策していただき

【写真⑦】8月11日、ついに思い余って京都府レッドデータブックで絶滅危惧種のスナヤツメの解説をされている林博之先生(右)に泣きつきました。和東川での生息の可能性や生息ポイントをお尋ねし、林先生も京都府南部では確認されていないスナヤツメの、丹後地方での記録を参考に一日かけて一緒に散策していただき

【写真⑧】8月11日、ついに思い余って京都府レッドデータブックで絶滅危惧種のスナヤツメの解説をされている林博之先生(右)に泣きつきました。和東川での生息の可能性や生息ポイントをお尋ねし、林先生も京都府南部では確認されていないスナヤツメの、丹後地方での記録を参考に一日かけて一緒に散策していただき

この新聞報道の日の朝、小西逸男さん(左)によって生体

への同行は叶いませんが、自身の観察記録を地図上にプロットし、やはり珍蛇・タカチホヘビの発見者で爬虫類担当の西森普善さん(右)に想いを託しました。

夜間にも、CDによる鳴き声調査で夜行性の鳥の確認に臨み、水田や平野部の少ない和東町でも思いの外多くの野鳥の生息を記録することができました。12月

【写真⑨】8月11日、ついに思い余って京都府レッドデータブックで絶滅危惧種のスナヤツメの解説をされている林博之先生(右)に泣きつきました。和東川での生息の可能性や生息ポイントをお尋ねし、林先生も京都府南部では確認されていないスナヤツメの、丹後地方での記録を参考に一日かけて一緒に散策していただき

に岡井勇樹君、竹内康先生(左から)の不動のメンバーが中心です。環境省の標識足環を装着するパインデングと呼ばれる公式な生息記録となる鳥類標識調査も取り入れていますが、やはり野鳥調査の基

【写真④】そして、最も古い付き合いの岡井昭憲先生(右)は、長男の勇樹君が小学校低学年の頃から筆者の指導する自然観察会に参加し、すぐさま天賦の才を

【写真⑤】城陽PS会議の「生き物ハンズ」の認定を受けたナチュラリストの後継者の父親です。コアな分野を持たない岡井先生を、鳥から魚からカメからカエルに昆虫などの調査に連れ回し、イベントには欠かせない存在となつていきます。

【写真⑥】8月11日、ついに思い余って京都府レッドデータブックで絶滅危惧種のスナヤツメの解説をされている林博之先生(右)に泣きつきました。和東川での生息の可能性や生息ポイントをお尋ねし、林先生も京都府南部では確認されていないスナヤツメの、丹後地方での記録を参考に一日かけて一緒に散策していただき

【写真⑦】8月11日、ついに思い余って京都府レッドデータブックで絶滅危惧種のスナヤツメの解説をされている林博之先生(右)に泣きつきました。和東川での生息の可能性や生息ポイントをお尋ねし、林先生も京都府南部では確認されていないスナヤツメの、丹後地方での記録を参考に一日かけて一緒に散策していただき